

●トピックス●

グローバルメディア 2002 会場=東京都写真美術館

東京都写真美術館 学芸員 森山朋絵



去る2002年11月29日(金)から12月17日(火)まで、東京都写真美術館の映像展示室を会場に、日本バーチャルリアリティ学会の後援による映像メディア展「グローバルメディア2002」展が開催された。同展はほかにCG-ARTS協会(財団法人 画像情報教育振興協会)／アルスエレクトロニカ・センターの後援を仰ぎ、キヤノン株式会社／日本ヒューレット・パカード株式会社による協力、NHKテクニカルサービス株式会社／日本電子専門学校によるコンテンツ協力、(株)P-ddによる機材特別協力を得て実現の運びとなった。アルスエレクトロニカ・センターやNHKエンタープライズ21など、外部機関の協力を得て映像メディア分野の活況にスポットをあて、国内外で活躍する日本人作家／国際的ユニットを特集し、二つのフェスティバル(ACM SIGGRAPH/ARS ELECTRONICA)を中心に紹介する企画である。早期から海外で高く評価され、大きな隆盛を見せる日本の映像メディア表現をテーマに、アンニュアル(年次)展としての展開に向け、独創的なアーティスト／ユニットの作品を通じて新たな可能性を探ろうと試みた。

展示内容は、資料展示、インスタレーション展示とコンピュータグラフィックス上映、エレクトロニックシアター上映に分かれる。資料展示では、SIGGRAPH/ARS ELECTRONICAダイアグラム(年表)やゴールデン・ニカ賞トロフィーのフィギュア、金子ナンペイ氏イラストによる「Take Over」シンポジウムのバナーを展示した。インスタレーションでは、2002年度VR学会大会でもパフォーマンスを行い、ブルックナーハウスでのアルスエレクトロニカ2002開会式でもオープニングアクトを務めたユニット cell/66b のインタラクティブデバイス、

モビルスーツを思わせる衣装、「Faust II」「Test Patches」の記録映像が展開された。また、導入スペースでは高橋圭子+笹田晋司の可憐な参加型作品「Rakugaki」が子どもたちの注目を集め、エレクトロニックシアターでは串山久美子、師井聡子、児玉幸子+竹野美奈子らの海外発表記録が紹介された。さらにCG上映スペースでは、巨大な鏡の壁に隣接してCG作品の大型プロジェクションが行われ、河口洋一郎、大場康雄、高橋信雄、森野和馬による入賞作品が迫力をもって上映された。同スペースでは、会期中にジョシュア・ディビス(テクノロジスト／アーティスト)によるフラッシュ作品に関するアーティストトークが開催され、超満員を記録した。

同展は2003年9月にも「グローバルメディア2003」としてアンニュアル開催される。アルスエレクトロニカ2003インタラクティブ部門の審査員として取り組んだ成果を反映させながら、次回はさらに拡がるグローバルリズム／ローカリズムを超えた表現の可能性を追及したいと思う。

【連絡先】

東京都写真美術館 学芸課

担当者 森山朋絵

所在地 〒153-0062 目黒区三田1-13-3

電話：03-3280-0031 FAX：03-3280-0033

E-Mail：DZD00256@nifty.ne.jp

URL：www.tokyo-photo-museum.or.jp